

英国国営宝くじ基金による歴史的町並み保全事業に関する研究

-観光まちづくりの視点からの分析-

岡村 祐 （首都大学東京都市環境学部自然・文化ツーリズムコース 助教）

[研究報告要旨]

本研究は、1998年の制度創設以来、英国において200を超える保全地区を対象に実施されている歴史的町並みの保全整備事業であるタウンスケープ・ヘリテイジ・イニシアチブ [Townscape Heritage Initiative: THI]に着目し、THIの制度的特徴を明らかにした。THIが導入される地域では、国営宝くじ基金を財源としたヘリテイジ・ロタリー・ファンド[HLF]から5年間で最大200万ポンド（約2億7千万円）の補助金が、官民協働によるパートナーシップ組織の設立する基金（コモンファンド）へ付与される。この基金と土地・建物所有者の出資により、歴史的建造物の修理・修復、空隙地の開発、コンバージョン、公共空間整備等の歴史的町並みの総体を保全するためのプロジェクトが実施される。また、基金は、プロジェクト担当官の人件費や諸調査・計画費などにも充てることができる。THIには、このような事業を通じて地域社会や経済の安定、発展を実現するという地域活性化事業としての性格が色濃くみられる。

研究の後半では、THIと観光との関係性について考究した。英国全土で保全地区の数が9000を超えるという状況下では、地域振興の解は必ずしも歴史的町並みを資源とした観光にあるわけではなく、社会的、経済的に衰退の著しい地域では、THIには住宅地や近隣商業地の基盤整備としての役割が期待されている。その一方、事例研究を行った Glasgow Merchant City、Wigtown、Whitstableでは、それぞれ文化芸術産業、書店街、カキと海辺の風景というユニークなテーマを見出し、THIによって景観整備された歴史的町並みとそこに入るコンテンツを対象とした観光まちづくりの展開がみられる。そのなかでTHIは、地域に次々に導入されるハード事業のなかでも特に高い貢献度を誇り、また様々な開発資金を引き出す起爆剤として、地域の歴史的町並みの整備を実現させている。その結果、空きスペースの減少、土地利用の変化、雇用の確保といった地域の持続的な経済発展や、地域のシンボルとなる拠点施設整備による地域コミュニティの活性化を結実させており、地域の環境（資源）、経済、社会に対してバランス感覚のある観光まちづくりとしての地域活性化が実現している。